

大学・高専機能強化支援事業（支援2：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）
【高等専門学校】実施状況報告書

選定年度	令和6年度	学校コード	G135110110212	改組内容	学科・コース等の設置・増員（高専）
高等専門学校名	宇都工業高等専門学校	設置区分	国立	事業計画名	DX/GXで切り開く未来を支える情報技術と高度専門性を備えた宇都高専エンジニアの育成
学校種	高等専門学校	都道府県	山口		

1. 年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画（上欄：研究科等の設置等及びその準備（施設認可申請等）、下欄：教育環境の整備（施設整備、教員採用等）、教育活動の充実等の取組）と取組状況及び自己評価を記載してください。

当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
令和6年度	【情報系組織の入学定員】＜準学士＞40名 【令和6年4月1日時点の入学定員】制御情報工学科 入学定員40名 9月 電気システム工学科施設認可申請、機械工学科（機械工学コース、知能機械システムコース）コース施設認可申請、物質工学科（化学・生物コース、データサイエンスコース）コース施設認可申請	【情報系組織の入学定員】＜準学士＞40名 【令和6年4月1日時点の入学定員】制御情報工学科 入学定員40名 9月 電気システム工学科 施設認可申請 、機械工学科（機械工学コース、知能機械システムコース）コース 施設認可申請 、物質工学科（化学・生物コース、データサイエンスコース）コース 施設認可申請 の 設置に関する事前確認資料を機構本部に提出	R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。 ①情報教育推進室を設置し、②改組・コース設置後の教育カリキュラムの実施準備及び③自治体（県・市）・企業・大学との連携の検討について、情報教育推進室会議等で審議し進めた。 ④情報教育棟新営工事基本設計の契約、⑤数理・DS・AI関係情報教育の一部先行実施について、計画通りに実施することが出来た。 ⑥改組・コース設置に係る学外への説明については、学生・保護者への説明、HP掲載、地元新聞及びラジオ番組に出演し学外へ周知するなど積極的に実施することができた。 ⑦情報教育棟の新設に係る入札公告、⑧情報教育棟新営工事実施設計の契約についても、計画通りに進めている。 ⑨情報教育のための体制整備（情報教育担当実務家教員1名及び担当事務職員1名の採用）について、教員は、当初の予定通り公募を実施したが応募がなく、R6年度は特命助教1名のみ2カ月遅れての採用となった。また、事務補佐員は、本事業を円滑に進めるため、担当業務の見直しと調整に時間を要し採用時期が2カ月遅れたが、情報教育のための体制整備及び授業実施については全額自己財源で既に雇用している教職員で進めており、事業実施への支障はない。このことについては、R7.2.10承認済み。 ⑩情報教育棟新営工事地盤調査については、実施設計業者から、基礎の設計にあたり既存地盤調査資料では不十分との指摘があり、追加で実施した。このことについては、R7.2.10承認済み。
	①4月 情報教育推進室の設置 ②4月 改組・コース設置後の教育カリキュラムの実施準備 ③4月 自治体（県・市）、企業、大学との連携の検討 ④7月 情報教育棟新営工事基本設計 ⑤10月 数理・DS・AI関係情報教育の先行実施（一部） ⑥10月 情報教育のための体制整備（情報教育担当実務家教員3名及び担当事務職員1名の採用） ⑦10月 情報教育のための教員確保（非常勤が授業科目シネリクスキルの一部担当） ⑧10月 改組・コース設置に係る学外への説明 ⑨11月 情報教育棟の新設に係る入札公告 ⑩12月 情報教育棟新営工事実施設計 複数年契約（1年目）	①4月 情報教育推進室の設置 ②4月 改組・コース設置後の教育カリキュラムの実施準備 ③4月 自治体（県・市）、企業、大学との連携の検討 ④7月 情報教育棟新営工事基本設計 ⑤10月 数理・DS・AI関係情報教育の先行実施（一部） ⑥4月 情報教育のための体制整備（情報教育担当実務家教員3名及び担当事務職員1名の採用） （R7.2.10承認） ⑦4月 情報教育のための教員確保（非常勤が授業科目シネリクスキルの一部担当） （R7.2.10承認） ⑧10月 改組・コース設置に係る学外への説明 ⑦11月 情報教育棟の新設に係る入札公告 ⑧12月 情報教育棟新営工事実施設計 複数年契約（1年目） ⑨12月 情報教育のための体制整備（情報教育担当実務家教員1名及び担当事務職員1名の採用）（R7.2.10承認） ⑩1月 情報教育棟新営工事地盤調査（R7.2.10承認）	R7年度自己評価	リストから選択してください。
令和7年度	【情報系組織の入学定員】＜準学士＞40名 4月 改組及びコース設置に係る学則変更届 ①4月 情報教育棟新営工事に係る入札公告 ②4月 継続：情報教育棟新営工事実施設計 複数年契約（2年目） ③4月 継続：改組・コース設置後の教育カリキュラムの実施準備 ④4月 継続：自治体（県・市）、企業、大学との連携の検討 ⑤4月 追加：数理・DS・AI関係情報教育の先行実施（一部） ⑥4月 継続：情報教育のための体制整備（情報教育担当実務家教員3名及び担当事務職員1名の採用） ⑦4月 継続：情報教育のための教員確保（非常勤が授業科目シネリクスキルの一部担当） ⑧4月 継続：改組・コース設置に係る学外への説明 ⑨6月 情報教育棟新営工事 ⑩2月 情報教育棟及び学内の情報関係設備の設置		R8年度自己評価	リストから選択してください。
	【情報系組織の入学定員】＜準学士＞90名 4月 電気システム工学科設置（入学定員40名）、機械工学科（機械工学コース、知能機械システムコース）コース設置（入学定員40名）、物質工学科（化学・生物コース、データサイエンスコース）コース設置（入学定員40名） ①4月 改組及びコース設置と新カリキュラム開始 ②4月 情報教育棟の運用開始 ③4月 自治体（県・市）、企業、大学との連携開始 ④4月 数理・DS・AI関係情報教育の完全導入 ⑤4月 継続：情報教育のための体制整備（情報教育担当実務家教員5名及び担当事務・技術職員各1名の採用） ⑥4月 継続：情報教育のための教員確保（非常勤が授業科目シネリクスキルの一部担当） ⑦4月 継続：改組・コース設置に係る学外への説明 ⑧4月 継続：情報教育棟及び学内の情報関係設備の設置		R9年度自己評価	リストから選択してください。
令和8年度	【情報系組織の入学定員】＜準学士＞90名 ①4月 継続：自治体（県・市）、企業、大学との連携 ②4月 数理・DS・AI関係情報教育の実施と専門性の高度化 ③4月 継続：情報教育のための体制整備（情報教育担当実務家教員5名及び担当事務・技術職員各1名の採用） ④4月 継続：情報教育のための教員確保（非常勤が授業科目シネリクスキルの一部担当） ⑤4月 継続：改組・コース設置に係る学外への説明 ⑥4月 継続：情報教育棟及び学内の情報関係設備の整備		R10年度自己評価	リストから選択してください。
	①4月 継続：自治体（県・市）、企業、大学との連携 ②4月 継続：数理・DS・AI関係情報教育の実施と専門性の高度化 ③4月 継続：情報教育のための体制整備（情報教育担当実務家教員5名及び担当事務・技術職員各1名の採用） ④4月 継続：情報教育のための教員確保（非常勤が授業科目シネリクスキルの一部担当） ⑤4月 継続：改組・コース設置に係る学外への説明 ⑥4月 機械工学科及び物質工学科における情報系コース選択者の決定（4年次） ⑦4月 継続：情報教育棟及び学内の情報関係設備の整備		R11年度自己評価	リストから選択してください。
令和9年度	【情報系組織の入学定員】＜準学士＞90名 ①4月 継続：自治体（県・市）、企業、大学との連携 ②4月 継続：数理・DS・AI関係情報教育の実施と専門性の高度化 ③4月 継続：情報教育のための体制整備（情報教育担当実務家教員5名及び担当事務・技術職員各1名の採用） ④4月 継続：情報教育のための教員確保（非常勤が授業科目シネリクスキルの一部担当） ⑤4月 継続：改組・コース設置に係る学外への説明 ⑥4月 継続：情報教育棟及び学内の情報関係設備の整備		R12年度自己評価	リストから選択してください。
	①4月 継続：自治体（県・市）、企業、大学との連携 ②4月 継続：数理・DS・AI関係情報教育の実施と専門性の高度化 ③4月 継続：情報教育のための体制整備（情報教育担当実務家教員5名及び担当事務・技術職員各1名の採用） ④4月 継続：情報教育のための教員確保（非常勤が授業科目シネリクスキルの一部担当） ⑤4月 継続：改組・コース設置に係る学外への説明 ⑥4月 継続：機械工学科及び物質工学科における情報系コース選択者の決定（4年次） ⑦4月 継続：情報教育棟及び学内の情報関係設備の整備 ⑧4月 情報教育のための教員確保（非常勤が一部の授業及び実験科目を担当）		R13年度自己評価	リストから選択してください。
令和10年度	【情報系組織の入学定員】＜準学士＞90名 ①4月 継続：自治体（県・市）、企業、大学との連携 ②4月 継続：数理・DS・AI関係情報教育の実施と専門性の高度化 ③4月 継続：情報教育のための体制整備（情報教育担当実務家教員5名及び担当事務・技術職員各1名の採用） ④4月 継続：情報教育のための教員確保（非常勤が授業科目シネリクスキルの一部担当） ⑤4月 継続：改組・コース設置に係る学外への説明 ⑥4月 継続：機械工学科及び物質工学科における情報系コース選択者の決定（4年次） ⑦4月 継続：情報教育棟及び学内の情報関係設備の整備 ⑧継続：4月 情報教育のための教員確保（非常勤が一部の授業及び実験科目を担当）		R14年度自己評価	リストから選択してください。
	①4月 継続：自治体（県・市）、企業、大学との連携 ②4月 継続：数理・DS・AI関係情報教育の実施と専門性の高度化 ③4月 継続：情報教育のための体制整備（情報教育担当実務家教員5名及び担当事務・技術職員各1名の採用） ④4月 継続：情報教育のための教員確保（非常勤が授業科目シネリクスキルの一部担当） ⑤4月 継続：改組・コース設置に係る学外への説明 ⑥4月 継続：機械工学科及び物質工学科における情報系コース選択者の決定（4年次） ⑦4月 継続：情報教育棟及び学内の情報関係設備の整備 ⑧継続：4月 情報教育のための教員確保（非常勤が一部の授業及び実験科目を担当）		R15年度自己評価	リストから選択してください。

フォローアップ対象年度	令和6年度	高等専門学校名	宇部工業高等専門学校
-------------	-------	---------	------------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の高専

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第123条で準用する第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている高専

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた高専

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている高専

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する高専

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた高等専門学校であること。なお、新設予定の高等専門学校で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
対象に該当しない	☐ チェック					
②	志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び高等専門学校での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる学科・コース等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野のうち情報系分野に係る学科・コース等の設置・増員（学科の定員の増員を伴わないものを含む。以下「学科・コース等の設置等」という。）を行う計画であり、学位種類分野変更基準に定める工学関係の学位の分野に係るものであること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学則において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学科・コース等の設置等の取組であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑧	機構による事業計画の選定があった日から2年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学科・コース等の設置等を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑨	計画の対象となる学科・コース等の設置等において、20名以上の入学定員の増員を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑩	国立高等専門学校について、学校全体の収容定員の増員を伴う学科定員の増員を行う場合は、定員増を行った日から10年を経過した日までに、他学科・他コース等を中心に同規模の定員減を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない	☒ チェック					
⑪	教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和6年度	高等専門学校名	宇部工業高等専門学校
-------------	-------	---------	------------

⑫	文部科学省が実施する数理・データサイエンス・AⅠ教育プログラム認定制度における「リテラシーレベル」の認定を受けていること。		
	認定を受けている	☒ チェック	
	認定を受ける計画が進んでいる	☐ チェック	

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度 の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載して下さい。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

- ① 地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
地域の自治体として 山口県や宇部市 とはデジタル人材育成に関する連携を進めている。山口県では、DX推進拠点『Y-BASE』や官民連携の組織『デジテック for YAMAGUCHI』があり、令和3年度より本校教職員及び本校地域振興協力会である宇部高専テックアンドビジネスコラボレイト（宇部高専T&B）会員を対象とした施設見学及び説明会やDXに関する講演会を実施しており、中山間地域の課題をデジタル技術で解決する機運醸成を図る『エンジニア・キャンプYAMAGUCHI』にも本校教員が協力している。宇部市とは、 令和3年に宇部市と山口大学工学部と本校によるデジタル人材育成に関する連携協定を締結 しており、すでに協働に対する取り組みを実施している。地域教育を活用した或いは地域の課題解決に取り組む地域に対するSTEAM教育や山口大学工学部との共同によるワクワク未来デジタル講座を継続しており、今年度より企業を講師として招いた3Dオブジェクト作成講座を本校とうべスタートアップを会場として実施した。さらに、企業との連携としては、 宇部高専T&Bの加盟企業 へ依頼済である。宇部高専T&Bには、2021年より本校で開催しているU-16プログラミングコンテスト山口大会の共催、情報系会員企業においてインターンシップを実施している。以上の外部組織とは、 すでに情報教育に関する協力体制が構築 されており、今後も継続的に連携し、本校学生の育成に加えて地域の高度情報人材の拡充に努めていく計画である。また、地域の自治体や企業等との情報人材育成の拠点として、「情報教育棟I-CUBE」を新設し、連携講座や寄附講座の開設に努め、支援期間以降の継続的な運用を計画する。	山口県内の高等教育機関のデータサイエンス教育の普及及び促進を目的とした、大学リーグやまぐちデータサイエンス教育ワーキンググループに参加した。山口県が実施したメタバースを活用した県内企業PRイベントやまぐちDX推進拠点Y-BASE及びY-BASE宇部ブランチ、宇部市の連携により構築したメタバースときわ公園を活用した「UGCコンテストinメタバースときわ公園」に参加した。宇部高専サイバー-防犯ボランティアチームが、山口県警察本部からサイバー-防犯ボランティアに委嘱され、「第2回フィッシングサイト撲滅チャレンジカップ」に出場し、入賞した。また、県内企業が中心である宇部高専T&B会員を対象とした「大学・高専機能強化支援事業に関する取組や計画」について説明会を実施した。さらに、県知事へ今後の本校のデジタル人材育成について紹介した。 宇部市とは、宇部市・山口大学工学部・本校によるデジタル人材育成に関する連携協定により、地域教育を活用した或いは地域の課題解決に取り組む地域に対するSTEAM教育や山口大学工学部との共同によるワクワク未来デジタル講座、加えてうべスタートアップと連携し地域企業を講師として招いた3Dオブジェクト作成講座を継続して実施した。また、このデジタル人材育成に関する連携協定は、令和7年3月に「地域イノベーション人材育成に関する協定」として再度締結し、デジタル人材に加えてイノベーション人材の育成を行う予定である。地域の自治体や企業等との情報人材育成の拠点として、「情報教育棟I-CUBE」を新設予定であり、その棟内の什器の購入のために「ふるさと納税」による人材育成支援の協力を得ている。さらに、宇部市長へ今後の本校のデジタル人材育成について紹介し、新たな市との連携講座などの可能性について議論した。 企業との連携のため、宇部高専T&BによるU-16プログラミングコンテスト山口大会への共催、情報系会員企業におけるインターンシップについても継続して実施した。また、情報系会員企業による、本校学生向けのアイデアソンを実施した。	DX推進拠点『Y-BASE』や官民連携の組織『デジテック for YAMAGUCHI』の活用について、引き続き検討する。『Y-BASE』は卒業研究等で見学しており、『デジテック for YAMAGUCHI』は一部の教員が会員であり情報提供頂いている。

- ② 初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本校では、山口県内の小中学校への出前授業（令和5年度実績：小学校13校46件1199名、中学校3校19件541名）を行い、その中でもプログラミングなどの情報教育に関する講義を38件984名に対して実施している。なお、出前授業では本校学生が講師を務め、テーマ設定や教材開発に取り組んでいる。小中学生の将来的な人材像としてイメージできるように、高専とのシームレスな接続を目指しており、受講生や受入教員からの満足度は非常に高い。さらに、小中学生を対象とした公開講座では、プログラミングやマイコンなどによるデジタル技術を習得する講座を開講している。また、地域のときわ公園や体育施設を活用し、企業との共催による『ときわ公園こども科学館』や宇部市スポーツコミッションによる『スポーツコミッションフェスタ』、宇部市との連携により植物園や動物園をフィールドにした情報技術を活用したイベントを開催している。加えて、宇部高専T&Bとの共催により2021年からU-16プログラミングコンテスト山口大会とその事前講習会（4回）を開催し、教育委員会を通して県内全小中学校及び高校へポスターやチラシを配布し、小学3年生から高校1年生さらには教員までが参加している。その結果、2022年大会では競技部門7名と作品部門27名であった出場者が、2023年大会では競技部門11名と作品部門39名に増加した。また、第1回大会から毎年、大会出場者から本校に入学する学生があり、その学生達が大会運営を担っていることから、デジタル人材育成サイクルがうまく機能しており、地域の早期情報教育に貢献している。支援期間中では、本校学生の情報教育に加え、本校で作製した情報教材を展開し、小中学校及び高校と連携したSTEAM教育についても柱として注力する計画である。	令和6年度、山口県内の小中学校への出前授業を全34件（小学校13校53件、中学校3校10件）実施し、そのうち情報教育に関する講座を13校36件（プログラミング教育等34件、情報セキュリティ教育2件）実施した。なお、出前授業では本校学生が講師を務め、テーマ設定や教材開発に取り組んだ。 小中学生を対象とした公開講座では、プログラミング技術を習得する講座を開講した。 また、地域のときわ公園や体育施設等を活用し、企業との共催による『こども科学館inときわ』や宇部市スポーツコミッションによる『スポーツコミッションフェスタ2024』や宇部市と山口大学と連携したワクワク未来デジタル講座の一環として『こどもプログラミング教室スマートプレイふーむ』を開催している。また、やまぐちDX推進拠点Y-BASE及びY-BASE宇部ブランチ、宇部市の連携により構築したメタバースときわ公園を活用した「UGCコンテストinメタバースときわ公園」に参加した。加えて、宇部高専T&Bとの共催によりU-16プログラミングコンテスト山口大会とその事前講習会（全4回6テーマ）を開催している。県内全小中学校及び高校・高専へポスターやチラシを配布し、小学3年生から高校・高専1年生までの幅広い年代が参加しており、講習会には44名が参加し、2024年大会では競技部門13名と作品部門37名が参加した。また、第1回大会から毎年、大会出場者から本校に入学する学生があり、その学生達が大会運営を担っていることから、デジタル人材育成サイクルがうまく機能しており、地域の早期情報教育に貢献している。 昨年度末に宇部市長へ本事業における情報教育と地域に対する取組を説明し、地域の小中学校等へのSTEAM教育について、引き続き宇部市と協議する計画である。	

- ③ 女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
女子中学生向けに女性教員による入学の勧め動画や女子中学生向け応援サイトを制作し、女子中学生の志願者確保に努めている。電気システム工学科（改組前：電気工学科）では、女子学生による出前授業や公開講座を実施する組織を女性教員が2020年に立ち上げ、活動している。さらに、学会等で多数の表彰を受け、女子学生の活躍を積極的に発信していることから、当該学科の女子学生の入学者数は2022年度に5名、2023年度に7名と入学者確保に多大な貢献をしている。最近では、情報教育に係る講座を展開していることから、情報系に興味を持つ女子学生の更なる確保が期待できる。支援期間中に採用する教員として、企業からの現役エンジニアに依頼する計画であり、他大学において社会人に向けたリスキングの講座を担当している実績がある。そのため、本校にて情報教育の環境を整備することによって、同様の講座の展開が可能になり、県や市との連携を通して企業のDX教育等で活用できる講座の開設を検討する。留学生について、本校は海外留学を推進しており、年間100名を超える学生が短期或いは長期で留学している。また、国際寮も建築され受入態勢が整備されたことから、台湾やマレーシアやシンガポールなどの協定校より年間30名程度の学生が本校に留学し、教育研究活動を行っている。この研究活動では、特に情報系のニーズが高く、情報系の研究室の受入態勢の整備が急務となっている。さらに、特筆すべきは、ベトナムへの高専式教育の導入支援の拠点校を務めている。上記の研究活動や高専式教育のコンテンツの整理等において、支援期間中に環境整備することで充実したプログラムの提供と受入の拡充を実現できると考えている。	女子学生確保に向けては、本校HP受験生応援サイトのリニューアルや女子学生による公開講座の実施やコンテストへの出展やオープンキャンパス等の学校紹介での積極的な情報発信を実施し、電気システム工学科（改組前：電気工学科）の女子学生の入学者数は2024年度9名、2025年度5名となった。 令和6年度は、業務のDX化を推進し業務の効率化に努めたことによる時間の創出から、従来の入試広報活動の更なる発展（ホームページの改善、入試広報動画コンテンツの制作、放課後キャンパスツアーの実施など）に取り組み、一部の授業科目のデジタル採点の導入と事務作業用アプリ開発により入試広報活動を充実したことが、推薦入試の受験者数の増加につながった。令和7年度は、広報関連コンテンツや業務効率化アプリなどの開発の検討を開始している。 留学生確保に向けては、令和6年度についても、本校から105名の学生を海外に派遣し、41名留学生を受け入れるなど国際交流活動の推進に努めた。また、令和6年度末に、タイ高専と新たな協定を結んだ。 本事業で採用する予定であった、企業エンジニア経験者の教員については、公募を実施したが応募がなく、企業エンジニアの獲得には至っていない。 県や市、企業と連携し、企業のDX教育等で活用できる講座の開設を進めている。	本事業で採用する予定であった企業エンジニア経験者の教員については、令和7年度も引き続き、学会や他大学、企業への訪問等を通じて新たな人材確保に努める予定。 県や市、企業との連携を深め、地域密着型情報人材育成を推進していく。

- ④ 他大学（外国大学を含む。）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
⑤と⑦に記載したように令和3年に 宇部市・山口大学工学部と本校によるデジタル人材育成に関する連携協定を締結 しており、すでに協働に対する取り組みを実施している。地域教育を活用した或いは地域の課題解決に取り組む地域に対するSTEAM教育や山口大学工学部との共同によるワクワク未来デジタル講座を実施しており、今後も継続する計画である。また、現在、山口大学では本校と隣接した常盤キャンパスに 情報学部 の設置を計画しており、設置後は情報教育を含めた高専-大学接続のためのシームレスな教育体制の整備や編入学及び大学院の特別推薦枠について本校と議論している。具体的には、山口大学で実践されている数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）に対応した授業コンテンツの一部の展開を計画している。さらに、2022年度末に 九州工業大学ニューロモルフィックAIハードウェア研究センターと宇部高専地域共同テクノセンターが包括連携協定を締結 し、AI等に関する講義やインターンシップ、大学院特別推薦入試を実施している。両大学の教員間連携においても、共同研究を通してより高度な情報系に関する研究活動に取り組む機会を創出する計画であり、一部の教員間ではすでに連携を開始している。高専間連携としては、すでに本事業に採択されている石川高専が実施しているデジタル人材リテラシーや情報セキュリティ関係等についての連携を検討している。	令和6年度、令和3年に締結した宇部市・山口大学工学部・本校によるデジタル人材育成に関する連携協定について、地域教育を活用した或いは地域の課題解決に取り組む地域に対するSTEAM教育や山口大学工学部との共同によるワクワク未来デジタル講座（全15テーマ中10テーマを受講、本校延べ受講者数1100名以上）を継続して実施した。また、本連携協定を令和7年3月に「地域イノベーション人材育成に関する協定」として再度締結し、これまでの内容に加えて地域イノベーション人材の育成等において協働の取組を実施することとした。 また、山口大学と九州工業大学ニューロモルフィックAIハードウェア研究センターより、本事業を通じての情報教育の連携のため、専攻科の『工学特論Ⅱにて4回分の講義を実施した。九州工業大学大学院には、包括連携協定を通じて進学しており、教員間の連携についても引き続き協議を行い、検討を進めた。	令和3年に締結した宇部市・山口大学工学部・本校によるデジタル人材育成に関する連携協定について、令和7年3月に「地域イノベーション人材育成に関する協定」として再度締結し、地域教育を活用した或いは地域の課題解決に取り組む地域に対するSTEAM教育や山口大学工学部との共同による地域リーディング・イノベーター講座（ワクワク未来デジタル講座の後継）を継続する計画である。

- ⑦ 文部科学省が実施する数理・データサイエンス・AⅠ教育プログラム認定制度について、申請要件である「リテラシーレベル」に係る要件を満たすのみならず、更に「応用基礎レベル」の認定を受けている、又は「応用基礎レベル」の認定を受ける計画があるか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
令和4年度から全学科を対象として数理・データサイエンス・AI教育プログラムを実施しており、 今年度中にリテラシーレベルを認定 されている。この認定を受け、本支援事業の申請の検討にあわせて、応用基礎レベルの認定に向けた議論を開始している。 全5学科が、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）を申請予定 であり、電気工学科（改組後：電気システム工学科）と制御情報工学科および経営情報学科の3学科は 現行カリキュラムの内容を変更し、令和6年度中に申請 する計画である。その他のコース設置予定の機械工学科と物質工学科の2学科については 令和8年度の新カリキュラムで対応 予定である。また、1年から4年までの全学的な共通科目（ジェネラックスキルⅠ～Ⅳ）において、令和7年度より応用基礎レベルに対応した情報教育に関する内容を拡充予定であり、全学的な情報技術の高度化を達成する計画である。さらに、制御情報工学科においては、他学科よりもさらに高水準な情報技術の獲得を検討している。	全5学科が、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）を取得するため、令和8年度に予定するカリキュラム改定を待たずして、現行カリキュラムの内容変更を検討し、機械工学科（コース設置予定）と電気工学科（改組後：電気システム工学科）の2学科が令和6年に申請を行った。物質工学科（コース設置予定）と従来より情報系である制御情報工学科および経営情報学科の3学科は令和7年度の認定に向けて準備を進め、申請書を作成した。また、1年から4年までの全学的な共通科目（ジェネラックスキルⅠ～Ⅳ）において、令和6年度より応用基礎レベルに対応した情報教育に関する内容を拡充し、全学的な情報技術の高度化を達成する計画である。さらに、制御情報工学科においては、他学科よりもさらに高水準な情報技術の獲得を検討している。	

高等専門学校名	宇部工業高等専門学校	改組内容	学科・コース等の設置・増員（高専）
---------	------------	------	-------------------

4.外部資金の状況（全学）

年度		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
項目	単位																			
外部資金獲得額	千円	143,588	***																	

特記事項

「1.本事業対象となる情報系組織の状況」「2.情報系組織の状況」「3.高等専門学校全体の状況」における令和6年度・令和7年度の編入学定員0人とは、若干名を意味している。
--